



学院 鶴川 学校法人 農村伝道神学校
発行人 平良 愛香

2022年4月6日入学式

「山を下りるために山に登る」

マルコによる福音書9:2-10

農村伝道神学校校長 平良 愛香



山上の変容（変貌）と呼ばれる記述では、イエスと共に二名の弟子たちが山に登り、そこでイエスがモーセとエリヤに挟まれて光り輝くのを目撃する。イエスと共に山に登るメンバーに選ばれ、さらにこの不思議な体験をした二人の弟子たちは、嬉しくてたまらなかつただろう。「自分といつも一緒にいるイエス様が、実はすごい人だったんだ！モーセ様やエリヤ様と知り合ってたんだ！」と分かること、

何となく自分までモーセやエリヤと親しい関係になったように感じ有頂天になってしまふ。ペトロが「ここに仮小屋を三つ建てましょう」と言い出したのは、自分にもできることをしたい、役に立ちたい、という純粋な思いがあっただけではない、もしかしたらイエスとモーセとエリヤに「気が利く奴だ」とほめられたかったのかもしれない。あるいは自分の業績を残したかったのかもしれない。でも一番言えるのは、弟子たちは、この栄光、イエスの輝きを少しでも長くとどめておきたい、できれば永遠にとどめておきたい、と思つたのではないだろうか。そして自分たちも願わくばここに留まりたいと願つた。しかしその栄光は続かず、気づけばいつもの通りのみす

安全保障関連法廃止！
辺野古新基地建設反対！

ぼらしい姿のイエスがいるだけだった。

この出来事から私はいつも考えてしまう。

神がいるのは、果たして山の上なのだろうか。山の上は神に近い場所なのだろうか。イエスは山上に留まろうとはしなかった。弟子たちは、この場所こそが神の子、救い主に相応しい場所であり、山を下りて欲しくないと考えたのだらう。しかしイエスは躊躇なく下山する。弟子たちは後ろ髪をひかれつつ、イエスと共に谷へ下っていく。下りきつたところにある地は、山上とは全く逆の場所。山の上がある意味、神のいる場所、光り輝く場所、あらゆる悩みから解放された場所だとすれば、地上は暗闇、病と死、苦しみ、悩み、争い、恐れに満ちた場所。下山したイエスを待っているのは、イエスの敵対者たちや苦しみにあえぐ人々。天から地に降りたイエスの生涯はまさに下り続ける生涯だった。神の住まいではないと思われたところに行き、人々の

傷つきたいのちを回復させる道を選んだイエス。

神は確かに「天におられる」のかもしれない。でもそれは地上から遠く離れているという意味ではないはず。大阪の釜ヶ崎で日雇いの労働者と共に生きるカトリックの本田哲郎神父は、主の祈りをこう祈っている。「はるか遠くではなく、すべてのものを内に包み込む「天」におられる神よ、あなたは前からも後ろからも私を囲み、御手を私の上に置いてくださいます。」

地上を含めてすべてを覆いつくす天であり、そして私たちの足元であるこの地上に神がいる、ということ。イエスは高い所に留まることを選ばず、あえて地上に下りてきた、ということ。

ウクライナが、ミャンマーが、パレスチナが、アフガニスタンが、香港が、沖縄が、世界中が呻いている今日、神のいのちと恵みを預かっているわたしたちは、どのように生きていくだろうか。天の神を仰ぐ、ということをお口ににして、被造物のうめきと、隣人の声にならない叫びに無関心になり、務めを放棄してはいないだろうか。

キリスト者として生きるといふのは、ただ神を信じ、イエスを救い主として信じてめ

でたしめでたしではなく、その神が私たちに告げた「この地で生きる」ということであり、地で生きるいのちを支えるということ。それをイエスは示し続け、そのために山から下りてきたということ。そこに心を止めたい。

神学校に入学された安田直人さん、そして在校生の高柳研二さん、池田昌功さん、吉川拓実さん、藤木謙一さん、後藤田由紀夫さん。皆さんは山に登って来た。バス通りからは確実に気温が1度は違う。

でもここは、神がいる樂園ではない。もし居心地が良かったら、ちよつと危険。（もちろん校長としては、なるべく居心地のいい環境にしたいなあととは思っているけど）。でも皆さんが山に登って来たのは、ここにしか神がいないからではなく、むしろ学んだあと、山の上にも、地上に居る人びとや被造物の呻きに寄り添うため。神がそこにこそ働かれています、ということをお学ばれた。もしかしたらこの山の上で「ここには神はいない！」とすら感じることもあるかもしれない。信仰がゆらいだり、薄れたり、あるいは見失つたりすることもあるかもしれない。それでいい。神はあなたの信仰を固く強くするためではなく、「そのままのあなたを

用いるから、しつかり学んだら下りておいで。待っているよ、共に働こう」と言っておられる。

何をなすべきか。イエスが山の上から地に降りてきたように、そのイエスが示す生き方を私も共に聞いて行きたい。

農村伝道神学校 卒業礼拝説教

「神の言葉を聞き、それを守る人」

ルカによる福音書 11:27-28
神奈川教区総会議長 古谷正仁

今日は伝統ある農村伝道神学校の卒業礼拝にお招きを受け、皆様と共に豊かな時を与えられたことを感謝しています。卒業生の皆さん、本日は本当におめでとうございます。私も38年前に、神学校を卒業しました。そして今も、神学校に関わっているのですが、私が卒業の時に思った2つのことを、卒業が近づくと良く耳にします。

その一つは、「こんな勉強で、牧師になって良いのだろうか。」というものであり、二つ目は、「でも同じ学びの日々を、もう一度繰り返せと言われればもう無理だ。」というものです。おそらく今、卒業の時を迎えた皆さんも、同じような思いを感じておられるかも知



4名の学生が卒業しました（一人入院のため欠席）。なお右手を上げているのが新校長、その列の右から4人目が古谷正仁神奈川教区総会議長。

れません。そして現場に出て、いろいろな経験をされ、いろいろな方に出会われるでしょう。私は卒業して12年、静岡県と石川県の教会で働きましたが、私の周りには、殆ど同窓の方はおられません。最初戸惑ったり、いろいろ驚いたものです。でもそこから、身につけていなかった学びをすることが出来ましたし、今までの学びを更に深めることが出来ました。

神学校にはそれぞれ創立の精神があり、伝統があり、教育方針があります。それが学

校の個性を生むのでしよう。そしてそれは、日本の教会の中で大事にされなければならぬものです。その多様性が、キリストに従うという点で用いられ、宣教の豊かさを生み出すのです。それを生み出すための大切な僕の一人として、これから神様は、皆さんを宣教の現場に派遣されます。どうぞ胸を張って、しかし柔軟に、新しい現場で生きて下さい。そして今日はみ言葉を通して、そのために必要なことの一つを考えたいのです。

今日のみ言葉は、1年365日に私達が読むべきみ言葉を、祈りをもって集められた、ローズンゲンという小冊子の、今日のみ言葉の一つです。「真の幸い」という小見出しがつけられたみ言葉で、「ベルゼベル論争」「汚れた霊が戻って来る」と題された物語に続いていきます。一人の神学者は、「現代人は不思議なことが起こると、それは本当に起こったのかと考えるが、古代人は、それが何の力によって引き起こされたのかを考える。」と記し、一連の流れの説明をしています。物語としては、主の癒しは悪霊の力によるものと考えた人々の中傷と、主イエスの反論、それに続けて、悪しき霊を心から追放した人間は、そこを空家に

せず、更に善いものを迎え入れなければならぬという勧めが語られ、それに感動した一人の女性の「なんと幸いなことでしょう。あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は。」という言葉への応答が、今日のみ言葉です。

ここで主イエスは、主イエスを生んだとか、育てたとか、言ってみれば特別の働きをしたことが祝福の基準ではなくて、もっと多くの人が招かれていると理解することも出来るのですが、しかし、「幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。」とまで言い切ってしまうと、「そんなこととは無理だ」とあきらめてしまいうるようになります。そのために自分が正しいと感じることをすれば良いのかと言え、そうでないことは明らかです。一人の権力者の、おそらく正しいと感じている力の行使によって、今ウクライナでは悪魔的とも思える殺戮がなされていますし、私達の教会においても、「信仰に基づく正しく良いこと」が人を傷つけたり、ないがしろにしたりする出来事を生み出すことを、私達は良く知っています。そして、「問題だ」と感じる人々や行動を、力づくで排除することは一見正しいことに見えますが、「神のみ言葉

を聞き、守る」ということに適っているのか、深く考える必要があります。つまり、どの様に生きるかが「神のみ言葉を聞き、守る」なのかを、私達は真剣に考える必要があるのです。

それについて考えて行くと、「神の言葉を聞き、守る」ということについて、「聞く」という言葉には「深く注意深く聞く、理解し実行するために聞く」という意味があることや、「守る」という言葉にも「遵守する、励行する」という意味があることが分ります。つまりここで主イエスが求めていることは、「神のみ言葉を深く理解し、実践するために励む」ということなのです。でもそれは難問です。私達は、自らの弱さを知っているからです。出来るかどうかは別にして、フアリサイ派の様に、「こうすれば合格」という基準を作ってしまう方が、少しは気が楽になると考えてしまう程、大きな壁が目の前にそびえる様な思いがします。

そこで、その前の24〜26節に目を留めたいのです。そこに示されるのは、「自分だけで努力しても駄目だ」ということです。自分の心に巣くっていた汚れた霊を誰かの力を借りて追い出して貰った。ホッとして、自分の心を整理し、

整えた。しかしその汚れた霊は、その整えられた心に自分より悪い仲間を連れて、こんな住みやすい場所はないと居ついてしまう。と主は話されました。自己管理だけでは、私達はどんなに努力しても限界があるということなのです。私達が心も身体も健康に生きるには、主イエスの助けの中で生きる事がどうしても必要なのです。

ある神学者が、「牧師というものは、神の支えなしには自分では生きられない存在だということをも、身をもって表すために教会に存在している」という意味の言葉を語っています。そして主の助けや支えというものは、不十分なながらもみ言葉を注意深く聞き、それを実践するために励む中で、弱さと不十分さの中で、しかし導かれる希望の中で生きるという事の中で、特にそれを強く感じるものなのです。

私達は毎週、幸いなことに、み言葉と格闘することが出来ます。その中で恵みに圧倒され、感謝と共に講壇に立つことが出来るのです。そして語った後それで終わりではありません。自らの不十分さを見つめつつ、そこから逃げず、み言葉に生きるためにやはり格闘するのです。そこで、教会から、地域から、見知らぬ

人の電話や訪問から、課題が突き付けられ、あちこちに走り回る事になります。時には砂を噛むような思いに至ることもありますが、その中でも、少なくともその課題を担い続ける力が、不思議な仕方と与えられて行くという経験を、多くの牧師達がしています。ある牧師は言いました。「牧師は3日やったら辞められない」。そうやって、遅延とした歩みの中で、「神の言葉を聞き、守る人」となるために育てられて行くのです。

その道にご一緒に歩みましょう。一緒に苦しみ、悩みましょう。必ず恵みや感謝が与えられていることに気づく筈です。これから私達は同労者です。躓きながら転びながら、何よりも主と共に、手を携えて歩みましょう。祈ります。

〈祈り〉

聖なる御神、コロナ禍の中ではありませんが、私達にこの日の操業礼拝を与えて下さり、心から感謝致します。今日もみ言葉を戴きました。有難うございます。主に信仰を与えられた私達が、あなたに示された道を歩み、み心を謙虚に求め、それに従うため支えられ、育てられて生きることが出来る様によって祈ります。アーメン。

新校長より

新校長となった平良愛香（神学科第48回卒）です。よろしく願います。第14代目の校長のようです。実は何代目であるかは少し議論もあるようですし、途中で木俣敏や清水恵三が「校長代行」が勤めていた時期もあるのですが、一応以下のように整理しました。「ここが違いますよ」ということがありましたら是非ご連絡ください。

- 第一代目 A・R・ストーン (1948年)
- 第二代目 E・M・クラーク (1951年)
- 第三代目 勝部武雄 (1957年)
- 第四代目 武藤健 (1959年)
- 第五代目 松本広 (1968年)
- 第六代目 高倉徹 (1972年)
- 第七代目 國安敬二 (1978年)
- 第八代目 柏井宣夫 (1985年)
- 第九代目 高橋敬基 (1993年)
- 第十代目 下田洋一 (2001年)
- 第十一代目 君島洋三郎 (2003年)
- 第十二代目 高柳富夫 (2011年)
- 第十三代目 R・ウィットマー (2018年)
- 第十四代目 平良愛香 (2022年)

新任教師紹介



有住 航

数年前から「近現代教会史」と「実践神学特講」の授業を非常勤講師として担当してきましたが、今年度から「教師」という係のひとりとして、農村伝道神学校への関与をさらに深めることになりました。

ひきつづき上記のクラスを担当しながら、わたしじしんの関心であるエキユメニズムと（しばしば「属格の神学」とよばれる）解放の諸神学の視点で、伝道・神学・教会といったものを批判的に解きほぐし、その暴力性と差別性を直視し、解放的なキリスト教のありようについて（それがありえるのかどうかも含めて）、農伝に連なるみなさんと一緒にあいだこーだ言いながらんがえっていきたいと思っています。わたしの神学的な根っこは、大阪・釜ヶ崎で日雇い労働者を取り巻く構造的な問題に全身全霊で取り組んでいた人びとの働きの中にあると思います。かじよ・かれらは、資本主義

経済とそれにもなう産業政策が推進する労働者の非人間化にたちむかつていくこと、そして労働者の視点から従来の宣教や教会のあり方を批判的に問い直すこと、そして、故郷や家族と切り離され、不安定な就労を余儀なくされた労働者たちの新しい「家」を、この街にかたちづくることをみずからのミッションとしていました。

都市のなかに形成された釜ヶ崎にも「農村」がありました。1970年前後に釜ヶ崎に移住し日雇い労働に従事した方々のおおくは、国の産業・エネルギー政策の要請によって各地の農村から都市に流入した元農民や元炭鉱労働者でした。釜ヶ崎の労働者は、都市開発を最深部で支えた下層労働者であると同時に、土地と故郷を喪い流動化したかつての農民でもあったのです。都市を生きぬく労働者の（生）のなかに農村の現実があり、市場経済に飲み込まれ、食糧・エネルギー・労働力の「供給地」とされた農村のなかに「都市化」の現実が重く横たわっています。

都市―農村を問うことは、自然破壊をともなう開発主義的な「都市化」を批判的に問うことになるでしょう。開発主義とそれを推進する「進歩」

「発展」といったイデオロギーをめぐる問題は、1960年代からラテンアメリカで、その後世界中で芽生え花開いていった解放の諸神学が全身全霊で取り組んできた神学的課題でもありました。農伝の生活のなかで、現在も進行する開発主義に抵抗する教会的神学的応答のこぼれを汲みあげ、育み、分かち合うことができたらいいなと思っています。すでに出会っている方も、これから出会う方も、どうぞよしなに。

新職員紹介



野村紀子

この度、事務に入れていただきました野村紀子です。原町田教会の教会員で、夫とサザナミンコンと暮らしています。牧師の育成という大切な役割を担う神学校で働かせていただけることに、感謝と共に大きな喜びを感じる毎日です。慌て者ですが、どうぞよろしくお願いたします。



福島弓李

3月より事務として働かせていただいております福島弓李（ゆり）です。熊本県出身です。

自然豊かな環境で鳥のさえずりを聞きながら働けることに喜びを感じつつ、虫が大の苦手なので、これから出会うであろうたくさんの方の虫たちに動じなくなるのが目下の目標です。どうぞよろしくお願いたします。



松本吉氏光

松本吉氏光（まつもとよし）です。3月に農伝を卒業し、4月から農場担当職員として働くことになりました。

と言いましても経験も技術も知識も足りない者です。農場の現在の課題は、ナラ枯れ病に罹った木を切り倒してゆくことです。これを炭にし、土に戻したいと思っています。埋炭と土中の微生物の関係について学びたいです。知らない事、分からない事を大切にしたいです。みなさん、どうぞよろしくお願いたします。

同窓生等個人消息

任地が変わった等で掲載可の連絡の取れた方を記載させていただきます。移動など変更のある同窓生の方がおられましたら、神学校事務までご連絡いただければ感謝です。

逝去

一 江連博治（神9）隠退教師
二〇二二年二月二十八日召天

移動

- 一 齊藤織恵（神72）上板橋キリスト教会（単立）就任
- 二 鳥潟紘一（神72）土沢教会就任
- 三 松本吉氏光（神72）農村伝道神学校農場担当職員就任
- 四 星野正興（神18）愛川伝道所を辞して隠退教師登録
- 五 北口沙弥香（神65）藤沢ベテル伝道所を辞して、愛川伝道所就任

学事報告

◇四月六日（水）第七四回入学式 入学生一名
◇四月七日（木）オリエンテーション、始業講演…「都市／農村に根ざす解放の神学」開発、寄せ場、身体をめぐって」有住航
◇四月八日（金）禅キリスト教入門オリエンテーション…佐藤研
◇四月十二日（火）前期授業開始

お知らせ

★六月七日（火）戦争責任シンポジウム（学内のみ）…関田寛雄
★七月十三日（水）～十四日（木）修養会
理事会評議員会報告は紙面の関係上お休みします。新入生と新任講師の紹介は次号に掲載いたします。

2023 年度入学案内

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上（洗礼式を行わない教派については、それに準ずる）の教会生活をしている者。
- (2) 所属教会が推薦し（可能であれば）、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース：2年間（2年間で修了することも可）。
- 基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
- 神学専門教職者養成コース：2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000 円（入学時のみ）
- 授業料 240,000 円（年額）
- 設備費 30,000 円（入学時のみ）

◆受験手続

次の書類を期日までに郵送または持参する。

- (1) 入学願書（本校指定の書式）
- (2) 履歴書（本校指定の書式）
- (3) 教会（牧師または役員会）の推薦書（可能であれば）
- (4) 最終学校卒業証明書（または卒業見込み証明書）
- (5) 受験料 10,000 円（振り込み）

◆入学願書受付

- 第1回 2022年10月18日（火）～11月4日（金）
- 第2回 2023年1月17日（火）～2月3日（金）

◆入学試験日時

- 第1回 2022年11月15日（火）午前9時～午後3時
- 第2回 2023年2月14日（火）午前9時～午後3時

◆会場 本校教室

◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください（無料）。

農村伝道神学校

〒 195-0063 東京都町田市野津田町 2024

Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711

Eメール：noden@pony.ocn.ne.jp

ホームページ：https://noden.ac.jp/

振替番号

農村伝道神学校 00160-6-18485

農村伝道神学校後援会 00120-6-24418